

【会員だより】

山東医学高等専科学校との国際交流報告

小田 紘弘(49 回生)

中華人民共和国、山東省済南市にある「山東医学高等専科学校」との国際交流についてご報告いたします。本学教員による放射線技術教育講座は、平成 11 年より毎年春秋 2 回、山東医学高等専科学校の学生を対象に実施されている。平成 24 年度は 9 月 8 日（土）から 9 月 15 日（土）、山東医学高等専科学校に出張し、4 日間の講義および「山東省医学映像学研究所」の見学を終了し、無事帰国した。山東医学高等専科学校には、関西国際空港を出発し北京首都国際空港を経由、済南遥牆国際空港から車で 30 分程度である。

山東医学高等専科学校は、学生総数 7,000 名程度である。放射線関連分野では 1 学年、300 名を超え、それぞれ 5 つの専門分野に分かれ、その内訳は技術、医士、超音波、放射線治療、医用電子機器である。今回の受講生は 2 学年が対象で 160 名程度であった。講義内容は、デジタル画像の基礎知識、画像機器工学、診療画像技術学の基礎および最先端技術に関するものであった。授業では、1 枚のスライドに 10 分程度を要し、スローペースで講義を行った。160 名の受講生は笑顔が絶えず楽しい雰囲気のもと、真剣な眼差しで授業に臨んでくれた。今回の印象は、山東医専の学生も本学学生も受講態度は変わらず、教員が学生に対して、熱意と愛情を持って、一所懸命（質の向上を図る）に教育することが大切であると感じた。私にとって有意義な時間を過ごすことができ、この経験を本学でも生かしていきたいと考える。

休日は、北京では天安門、故宮、北京后海、頤和園、万里の長城を観光し、済南では頤突泉公園、大明湖の観光、世界文化自然遺産の泰山に登ることができた。幸いなことに「反日デモ」には、遭遇しなかった。

今後とも本学と山東医専との学術交流を通じて、日中友好を図り国際社会の一員として教育機関の責任を果たしていきたいと思っております。最後に、お世話になりました山東医学高等専科学校の秦校長、並びに通訳頂いた李萌先生に、心から感謝とお礼を申し上げます。



以上